

## 豊明希望チャペル礼拝

2024/6/9

「わたしに従いなさい」

ヨハネの福音書 21 : 15～19

今日の箇所は、ヨハネの福音書のおわりの章で、このヨハネの福音書の著者ヨハネが、一度は、20:30「他にも多くのしるしを行われたがこの書には書かれていない。」と締めくくったはずのところを、どうしても付け加えて、私たちに伝えたいと思って、付け加えたところだと、前回もお話ししました。



イエス様は、弟子のペテロに、私を愛するか？と三度、同じ質問をされた箇所です。同じ質問をイエス様は繰り返されますが、そのやりとりには、微妙な、気持ちのやりとり、変化が、みられます。ヨハネは、その辺を、この書が書かれているギリシャ語のニュアンスからも、読者が、その気持ちのやりとりを感じ取れるように、あるいは、取りなさいと言われているように感じます。そこで、御言葉を追いながら、私も、ペテロの横にいるヨハネのような、目撃者のような思いで、教えられていきたいというより、味わっていきたい、感じていきたいと思います。それで、御言葉を追っていきますので、それぞれ、黙想しながら、共に聞いていきたいと思えます。

「21:15 彼らが食事を済ませたとき、イエスはシモン・ペテロに言われた。「ヨハネの子シモン。あなたは、この人たちが愛する以上に、わたしを愛していますか。」

ペテロは答えた。「はい、主よ。私があなただを愛していることは、あなたがお存じです。」イエスは彼に言われた。「わたしの子羊を飼いなさい。」

「食事を済ませたとき」とあります。前回のところの解釈に従えば、イエス様を三度知らないと言って、いわば裏切ったペテロでしたが、3日後には、復活をされたイエス様に出会うこととなります。しかし、しばらくエルサレムにとどまっていたのですが、故郷の、ガリラヤに帰ります。そして、イエス様に従う前の漁師に戻ります。そのとき、そのガリラヤで彼らを待っていたのは、復活をされたイエス様でした。このガリラヤに、漁師をするためにペテロに同行したのは、この書を書いているヨハネと(ペテロも)あわせて、7人でありました。

その7人+イエス様が、食事を終えたときでした。

ヨハネは、その時、イエス様がペテロに声をかけたとき、ペテロと言わず、シモン=ペテロという名の、最初のほうのシモンという名をあえて使って、「この人たち」すなわち、ヨハネはじめペテロを除く6人以上に、私を愛するか?と聞いたというのです。

ペテロは、イエス様が、教会のリーダーであり、教会の礎石、基礎ともなる人物として選んだ使命にもとづく、イエス様が付けた名前です。それを、使命を与えられるまえの、生まれたときの、罪人であり、また召される前の、シモンと名を呼ぶのです。

これは、彼が、使命を忘れて、元の生活、漁師の生活に戻ってしまったことを意味しているのかも知れません。

であれば、イエス様は、ペテロである事を捨てたシモンに、あらためて呼びかけた、すなわち、もう一度、使命を捨てたペテロに、あらためて使命を与えるべく、あるいは、裏切った、そして、ガリラヤに逃げ帰ってしまった罪を赦して、あらたに、召された弟子として歩むべく、声をかけ、忍耐をもって、一度、ダメであったけれど、ゆるして、あなたの罪を赦し、もう一度、使命を与えるよとペテロに言っているように聞こえます。

「あなたは、この人たちが愛する以上に、わたしを愛していますか。」と、イエス様はペテロに尋ねられました。私は、ここをいつも不思議な感じを持って読むのです。

ペテロに、6人のイエス様を愛する愛に比べて、この6人以上の愛を持っているかと尋ねるのです。これは、なかなか難しい質問だと思います。他の6人以上の愛をもっていると誰が言えるでしょうか?ですから、ここで、ペテロが、「はい、主よ。私があなただを愛していることは、あなたがお存じです。」と答えたのは、正直です。私の口から、それは、言えませんが、言うことです。

しかし、そうであっても、なぜ、イエス様は、あえて、他の6人と比較して、彼の愛を問うたのでしょうか。

これを書いているヨハネは、このあと、ペテロは、私ヨハネと比較して、彼(ヨハネ)はどうですか?とイエス様に尋ねたが、そのヨハネ(私)は、「イエスが愛された弟子」であり、その愛された弟子とは、:24「これらのことについて証しし、こ

れらのことを書いた者は、その弟子である。」と、私ヨハネであると言っているように、ペテロは、愛していることを問われたが、まるで、イエス様は、私を愛しているのだと、ちょっと意地悪に読むと、まるで、ペテロより、イエス様は私ヨハネのほうを愛していたのだと、その愛を競い合っているような文脈があって、この話しを近くで聞いていたヨハネも不思議な質問をイエス様なさったなあとも思っているような報告となっているのです。一つの解釈は、これは、イエス様がペテロの気持ちを察して、その気持ちにそって言っているということなのです。

強調して言えば、あなたは、まさか、他の弟子達よりも、私を愛していると思いが上がっているのではないよね。私を裏切り、また、ここまで逃げてきて。ペテロは、イエス様の察した通り、そう思っていたのかも知れません。

イエス様は、そんなペテロに、しかし、「私の子羊を飼いなさい」と言われます。それは、ペテロが教会のリーダーとして、教会のクリスチャンたちたちに羊の飼い主のように、責任をもちなさいと言っているようです。本来のペテロの使命、教会の礎石としての使命を果たせと言っているのだと思います。

そして、ふたたび、イエス様はペテロに問います。

「21:16 イエスは再び彼に「ヨハネの子シモン。あなたはわたしを愛していますか」と言われた。ペテロは答えた。「はい、主よ。私があなただを愛していることは、あなたがご存じです。」イエスは彼に言われた。「わたしの羊を牧しなさい。」

まず、大事な事は、もう、誰よりもなのかと、イエス様は聞かれませんが、ただ、愛するかと問うているだけです。彼は、同じ答えをします。あなたは、私の愛をご存じですと。私は、これで、イエス様は、彼のイエス様を誰よりも愛しているという傲慢をとりのぞき、ただ、単にイエス様を愛しているということは出来るかと、謙遜にさせ、愛するハードルを下げたと思います。

子羊と羊は、ギリシャ語的にも違いは明確にありますが、意味の違いは、子羊は、生まれただけの可愛い羊であり、見るからに愛らしい羊です。救われたばかりのクリスチャンと言ってもいい。しかし、あとの羊は、十分に成長した羊です。クリスチャンにはなったけれど、弱さが露呈してきて、それでもクリスチャンかと文句もいいたくなるような羊かも知れません。それでも、彼らの羊飼いとして責任をもちなさい、それでも、罪ある羊でも、いわば、イエス様が、二度裏切ったペテロを、裏切って愛しにくくなったあなたを私が赦して愛したように、罪ある羊でも、最後まで愛し抜きなさいと言っているように聞こえるのです。

「21:17 イエスは三度もペテロに、「ヨハネの子シモン。あなたはわたしを愛していますか」と言われた。ペテロは、イエスが三度も「あなたはわたしを愛していますか」と言われたので、心を痛めてイエスに言った。「主よ、あなたはすべてをご存じです。あなたは、私があなただを愛していることを知っておられます。」イエスは彼に言われた。「わたしの羊を飼いなさい。」

ここでも、羊に関して、子羊(飼いなさい)→羊(牧しなさい)→から、子羊は、16節の羊のままにして、牧しなさいは、15節の(飼いなさい)に戻しています。「飼いなさい：ボスコー」は、「食べさせる」で、「牧しなさい：ポイマノー」は、「監督

し責任を持つ」で、より責任の重い表現となります。

15節で、「誰よりも愛するか？」を、15節で、「愛するか？」とレベルを落としたように、レベルを落としたように見えます。

この、ペテロと、イエス様の質問と答えのずれは、最後に、決定的なことばで、また象徴的に、ヨハネ(ヨハネの晩年は、すでに異邦人伝道がすすみ、伝説では、ギリシャのエペソにいたこととなっている)によって指摘されることとなります。それは、ギリシャ語の使い方です。

愛するかかの質問のギリシャ語の使い方です。

:15 「愛するか」：アガパオー(神の愛、一方的な愛)、「愛している」：フィレオー(友愛、ギブアンドテイクの愛)

:16 「愛するか」：アガパオー、「愛している」：フィレオー

:17 「愛していますか」：フィレオー、「愛している」：フィレオー

これを、「愛」ということばに注目して、訳すと、あなたは、アガペーの愛をもって私を愛しますか？はい、フィレオー(友愛)の愛をもって愛します。いや、神の愛、アガペーの愛をもって愛しているかと聞いているが？はい、フィレオーの愛を持って。そうか、あなたは、私をフィレオーの愛で愛しているんだね。そうです主よ。フィレオーの愛を持って。と読めます。ややこしいことを言いますが、もちろん、この時に、ペテロとイエス様の会話は、ギリシャ語ではなく、ヘブル語(アラム語)であって、こうした、ギリシャ語の区別はないのですから、これは、ヨハネがこの書を書いたときに加えた解釈です。すなわち、ヨハネは、イエス様は、どこまでも、神の愛、一方的に愛する、子羊だから、可愛いから愛しているじゃなくて、羊も成長して、愛せない面も出てきた、そういった罪人でも愛するのだよ、牧会するんだよと、問うた。しかし、彼の愛は、あくまで、イエス様の言われたレベルではなかった。イエス様は、そんな彼に、そうか・・・アガペーで愛して欲しいが、フィレオーなんだねといい、よりレベルの高い牧会ではなく、エサさえ与えればいいんだというレベルの低い「飼う」という1ことなんだねと、レベルを落としているということです。

このように、イエス様のペテロへの期待と、ペテロの答えは、すれ違っていたのだと、これらのことを目撃して聞いていた、もっともキリストに愛された私としては、その意味がわかったんだ(21:24)と報告しているということです。

それで、そんな、イエス様の期待には応え切れていないペテロに、最後に、イエス様は、こう言われたんだと言うのです。



「21:18 まことに、まことに、あなたに言います。あなたは若いときには、自分で帯をして、自分の望むところを歩きました。しかし年をとると、あなたは両手を伸ばし、ほかの人があなたに帯をして、望まないところに連れて行きます。」  
21:19 イエスは、ペテロがどのような死に方で神の栄光を現すかを示すために、こう言われたのである。こう話してから、ペテロに言われた。「わたしに従いなさい。」

ここまでの文脈で、あえて、ここを一言でまとめれば、「あなたは、私があなたに期待し、求めている使命をまだ十分にはわかっていないね。でも、私は、そんなあなたを、それでも、遣わす」という事です。

そして、あなたは、わかっていなくても、その使命を果たす中で、その使命の重さを経験していきましょう。それは、言わば、あなたが使命を果たそうとして果たすと言うより、連れて行かれるようにしてして、両手にしばられて、連れ回されて、嫌だと思っても、引きずられるようにして・・・だけれども、私があなたに、私の望む使命を果たさせるよ。だから、もう私を愛しているかと問わない。私を愛することが、私があなたに望むようには完全には出来なくても、とにかく私に従いなさい。いや、私が、従わせてあげる。あなたには苦痛かもしれないけれど、あなたは、確実に、神の使命を果たすことが出来るようにしてあげるから。私に従いなさい。そう励まされた、そう励まされたということだと思うのです。さて、みなさんは、ここをどう読んだでしょうか。

ペテロの弱さ、私の弱さを究極まで受け止めて下さっているイエス様。そして、その使命を果たせるように私たちを、ペテロを必ず導いて下さるイエス様に安心を覚えて下さったでしょうか。

今週の歩み。「私に従いなさい」と言われる主に、あわれみのうちに、心から従う者でありたいと願います。